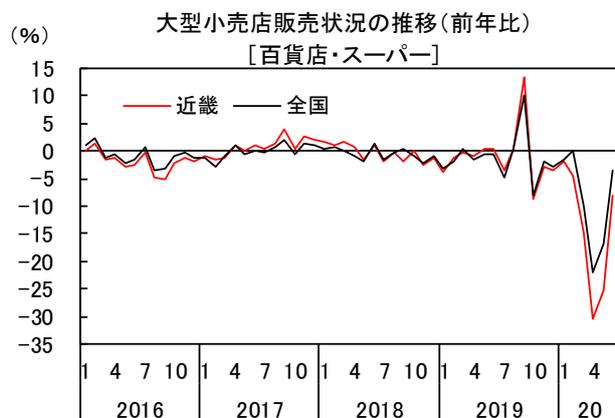
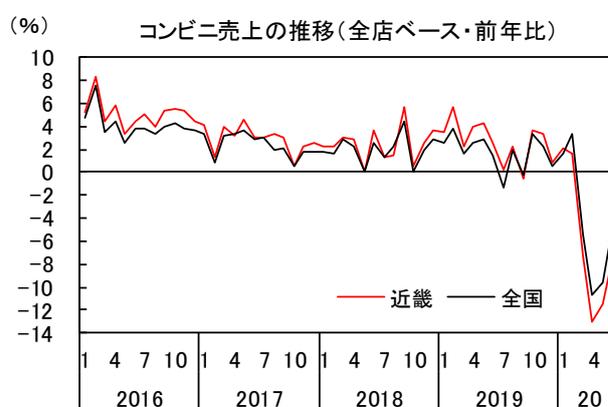


関西の景気トピックス【消費関連（20年06月）】

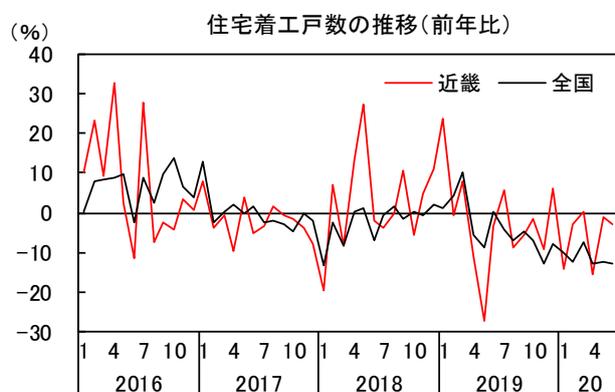
- 20年6月の大型小売店販売状況（経済産業省）は前年比マイナス8.0%と9か月連続の減少となっている。新型コロナの影響に対応した、緊急事態宣言の解除により、売上の一定の回復が進む形となった（業態別には、百貨店が19.9%減、スーパーが0.3%増）。
- コンビニ売上（経済産業省）の6月は、全店ベースで前年比マイナス7.7%と、4か月連続で減少した。全体としては回復傾向にあるものの、都市部を中心に、夜間の人出はまだ十分に戻っておらず、回復の規模も限定的となった。
- 住宅着工戸数の（国土交通省）6月は、前年比マイナス3.0%と3か月連続の減少となった。特に持家は9か月連続で減少と、需要の停滞が目立っている。
- 毎月勤労統計調査（厚生労働省）でみた賃金動向については、大阪は直近で前年を下回る動きが拡大している。新型コロナウィルスの影響が所得環境の悪化につながっていることから、今後も個人消費は停滞が続くことが懸念される。



（出所）経済産業省「大型小売店販売状況」



（出所）経済産業省



（出所）国土交通省「建築着工統計」



（出所）厚生労働省「毎月勤労統計調査」